

## 日本航空のSAFに関する取組について

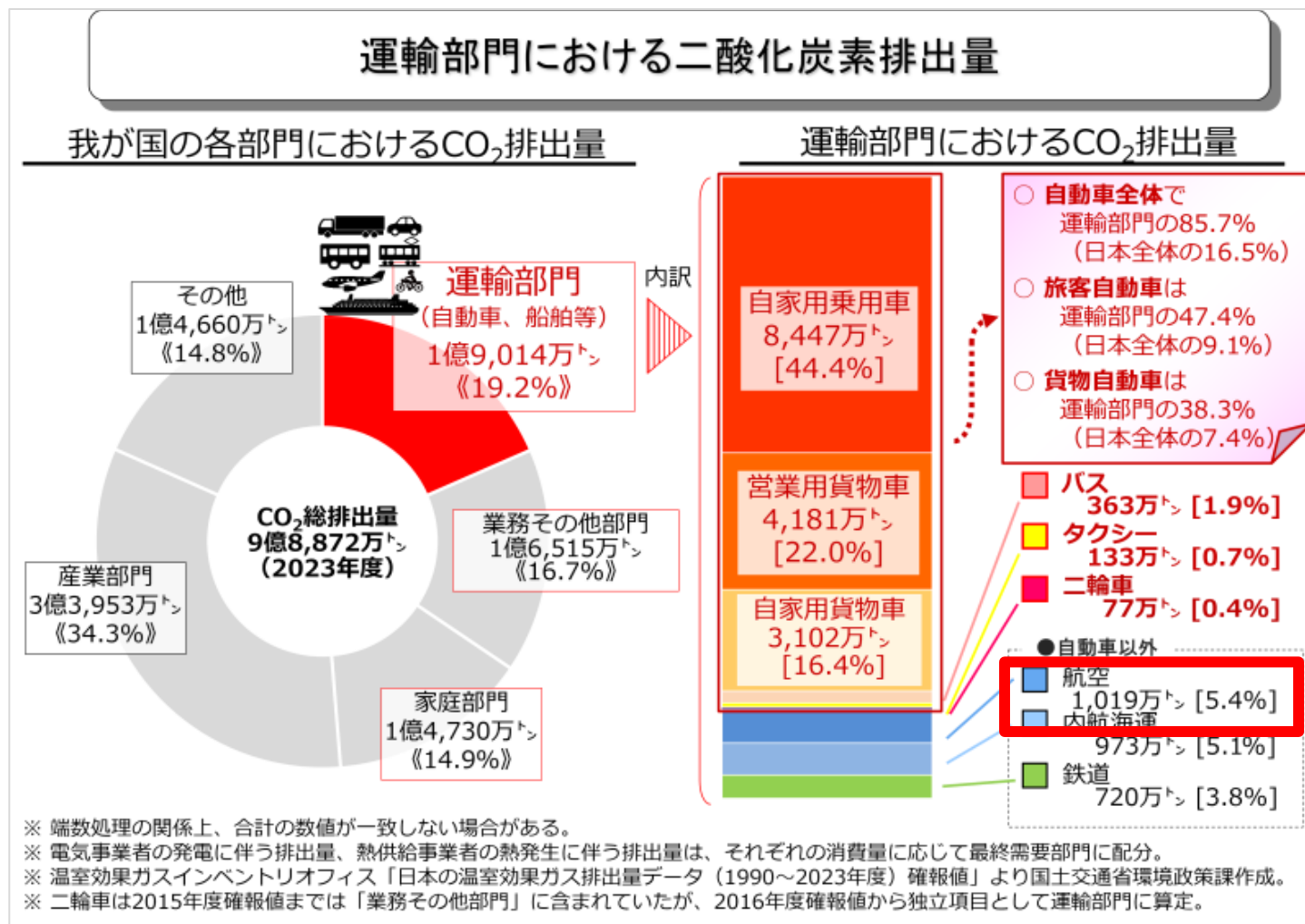
日本航空株式会社 経営企画本部  
2025年5月14日(水)



**JAPAN AIRLINES**

## <航空分野の比率>

- ・2023年の国内全分野のCO<sub>2</sub>総排出(約9.9億トン)における、運輸部門の割合は**19.2%**
- ・その運輸部門のうち、航空が占める割合は約0.1億トンで**5.4%** (→国内総排出量に占める航空の割合は**1.03%**)



# JALグループの2050 NET ZEROに向けた取り組み

- JALグループでは2020年に2050年のネットゼロ・エミッションの目標を設定
- 今年度より、FY2030目標に向けた取り組みを加速すべく、最新のロードマップに更新
- SAFを主たる脱炭素手段として、**ジェット燃料を2025年に1%、2030年に10%SAFに置き換える**目標を掲げている

## FY2030目標に向けた取り組み

### 機材更新

- 省燃費機材<sup>\*1</sup>比率の拡大  
(FY2019 29% ⇒ FY2030 73%)
- スタートアップ企業との協業により、  
次世代航空機（水素・電動）の技術開発貢献



### 運航の工夫

- グループ航空会社を含めた  
JAL Green Operationsの推進
- 省燃費技術（リブレット形状塗膜等）の  
実証と展開



### SAF

- FY30 全搭載燃料の10%置き換えに向けて、
- 国産SAF製造事業者との連携深化ならびに調達拡大
  - 国産SAFの原料(家庭系廃食油等)確保、  
地産地消への貢献
  - 海外での調達地点拡大、**oneworld**共同調達



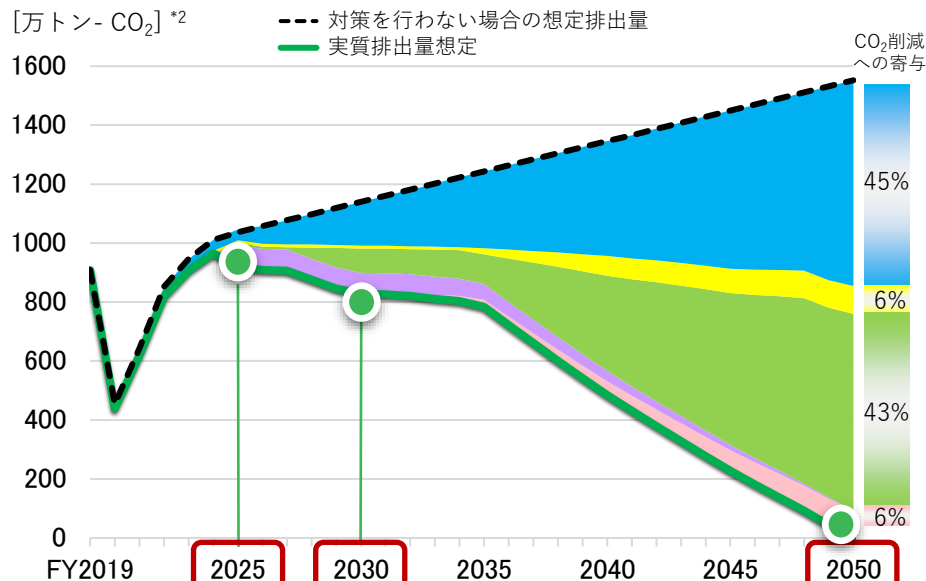
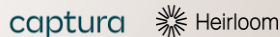
### カーボンクレジット

- CORSIA適格クレジットの活用
- カーボンクレジットを活用した地方創生  
(唐津市でのブルーカーボン創出の取り組みなど)



### 除去新技術

- 大気中のCO<sub>2</sub>を除去する技術を持つ企業へ  
の出資による次世代新技術の導入促進



FY2025経営目標  
排出量  
FY2019未満  
(921万トン)

FY2030目標  
排出量  
FY2019比▲10%  
(828万トン)

FY2050目標  
排出量  
実質ゼロ

### SAF置き換え目標

SAF使用量  
FY2025  
**4万kL**  
(全搭載量の1%)

SAF使用量  
FY2030  
**40万kL~**  
(全搭載量の10%)

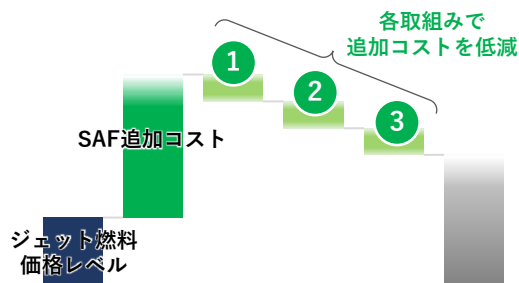
\*1 A350, 787, A321neo, 737-8の機数割合 \*2 航空機からの直接CO<sub>2</sub>排出量 (Scope1)

# SAFの利用拡大に向けた取組（調達上の工夫・官民連携）

## 利用拡大に向けたアプローチ

- 1 共同調達や長期契約による価格の低廉化
- 2 国産SAFの安定供給・利用促進に向けた官民連携
- 3 企業・荷主へのオフセット手段の提供（CO<sub>2</sub>削減証書販売）

## 燃油価格イメージ



- 4 SAFの認知度向上に向けた業界横断の取り組み推進

## ① 共同調達や長期契約による価格の低廉化

- 海外においては、ワンワールド(OW)アライアンスメンバーとの共同調達や長期契約等の工夫により、**需要を束ねることで生産を促し**、調達コストを下げる取り組みを進めている。
- 日本においても、OWメンバーともコミュニケーションを強化しながら、**需要見通しの見える化や調達上の工夫**等を検討していく。

### （米国での調達事例）



#### Aemetis社(米国・カリフォルニア州)

- ・アライアンスによる調達量：約130万KL(7年間)
- ・調達開始：2024年～(予定)
- ・原料：獣脂
- ・参加メンバー：AS/AA/BA/CX/AY/IB/QF/QR
- ・2024年度からSFOにて搭載予定



#### Gevo社(米国・ミネソタ州)

- ・アライアンスによる調達量：約75万KL(5年間)
- ・調達開始：2027年～(予定)
- ・原料：非食用トウモロコシ
- ・参加メンバー：AS/AA/BA/AY/QR
- ・2026年度からLAX/SFO/SANにて搭載予定

## ② 国産SAFの安定供給・利用促進に向けた官民連携

- 足元の変動要因を踏まえた諸課題に対して、**国際競争力ある価格でのSAFの安定供給の実現**を念頭に、引き続き、**需要創出・促進に向けたご支援**をお願いしたく当協議会を中心に関係者と連携を深めていく。

### （顕在化している諸課題・懸念）

- ・価格：原料・建築資材・人件費等の高騰、原料不足によるSAF価格の高止まり
- ・安定供給：原料不足・建設人員不足による製造供給遅れ
- ・品質(規格)：CORSIA適格認証の取得に向けたサプライチェーンの構築
- ・流通：認証の仕組み・証書・管理方法・ジェット燃料契約の併存 等

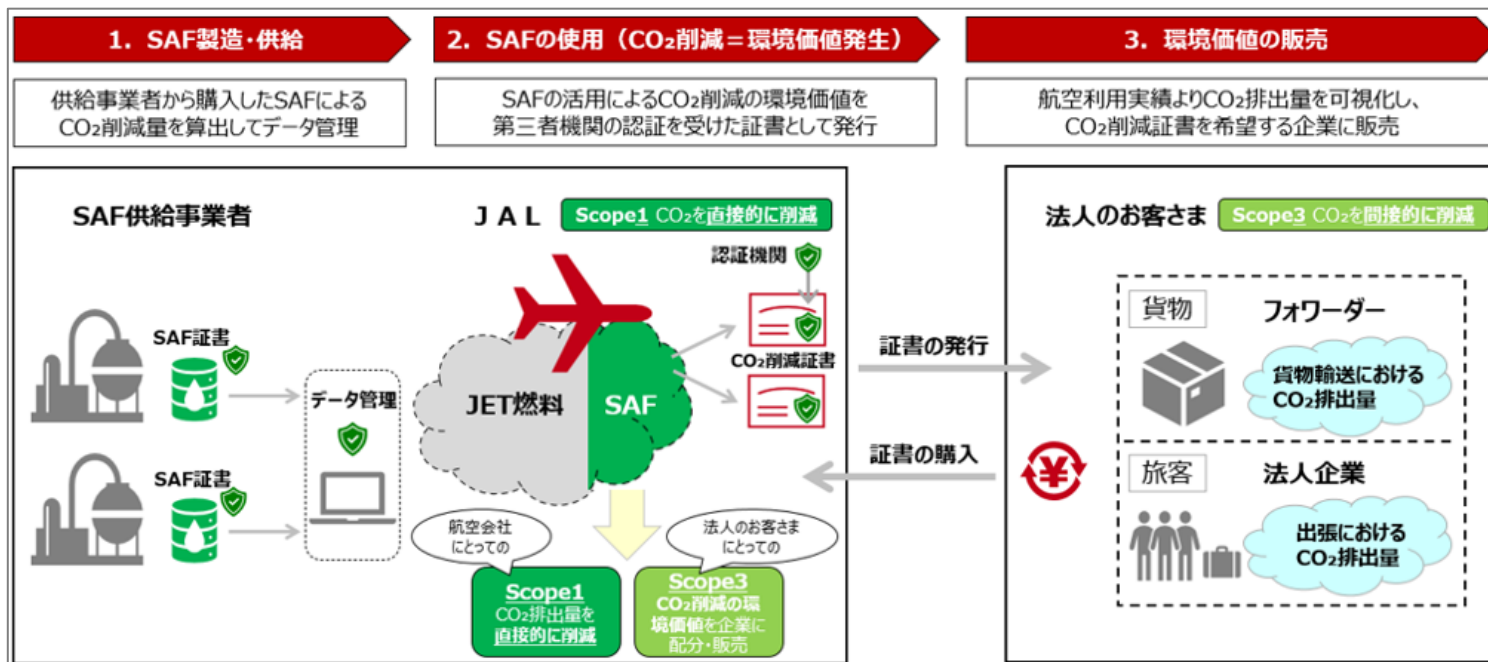
# SAFの利用拡大に向けた取組（Scope3）

## 利用拡大に向けたアプローチ

### 3 企業・荷主へのオフセット手段の提供(CO<sub>2</sub>削減証書販売)

- 2024年4月よりJALがSAFを活用することにより創出されるCO<sub>2</sub>削減の環境価値を証書化し、JAL便をご利用の法人のお客様さまに提供するプログラム( JAL Corporate SAF Program)を開始。
- 本プログラムを通じて、法人のお客様さまのご利用実績に基づくCO<sub>2</sub>排出量の可視化と削減が可能となり、発行される証書は、TCFD、CDP等が求めるCO<sub>2</sub>排出量削減の開示情報の算出に使用可能。

#### (JAL Corporate SAF Program 概要)



※現在、10社と契約中  
(2025年5月時点)

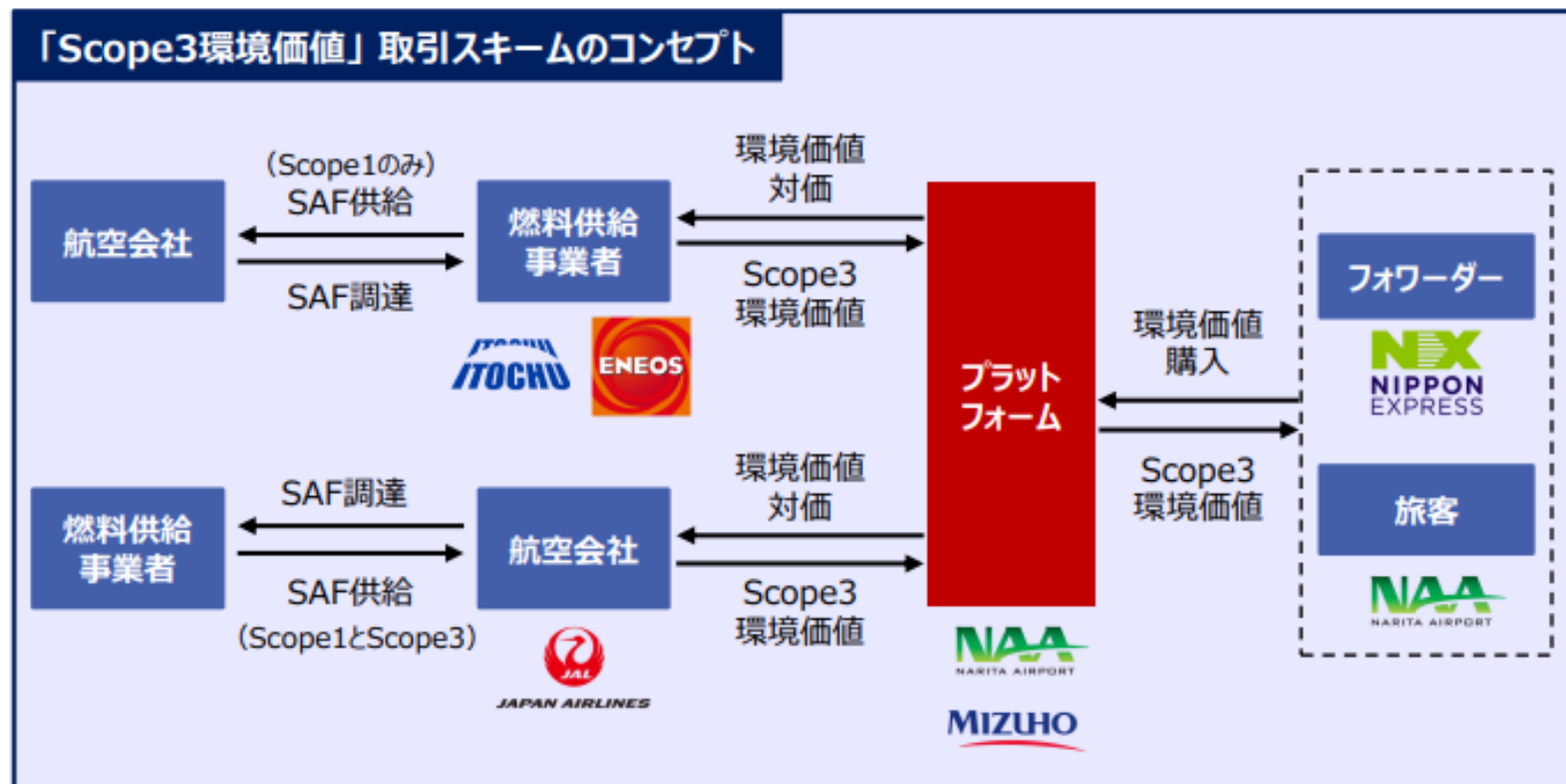
# SAFの利用拡大に向けた取組（Scope3）

## 利用拡大に向けたアプローチ

### 3 Scope3環境価値取引の実証試験

- 現在、成田空港において、NAA様を中心とする関係企業6社様とともに、**SAF使用で生じたScope3環境価値**の販売情報と購入情報をプラットフォーム上に収集し、マッチングさせることで、**環境価値の取引を活性化させる実証試験**を展開中。
- JALはSAFの使用に伴って発生したScope3環境価値を前頁の**JAL Corporate SAF Program**を通じて、提供する役割でプロジェクトに参画。

（成田空港における実証スキーム）





# SAFの利用拡大に向けた取組（普及啓発）

## 利用拡大に向けたアプローチ

### 4 SAFの認知度向上に向けた業界横断の取り組み推進

- SAFを使用する立場（責任）として、「身近にある資源をもっと活用しよう（SDGs）」をテーマに、家庭から出る廃食油（植物由来のもの）を原料とし、SAF（持続可能な航空燃料）を製造するプロジェクト「すてる油で空を飛ぼう」を開始。
- 全国の自治体や賛同企業様とともに、資源循環促進の市民活動につながることを期待し、家庭系廃食油の回収の仕組みの社会実装やSAFの認知度向上に取り組んでいる。（航空局による最新のアンケート調査ではSAF認知度はまだ4割程度）

#### （各自治体との連携の観点）

- ・脱炭素に向けた資源循環促進の取組みを市民へ根付かせていくこと
- ・廃食油のSAF化の一連の仕組みの構築及び社会実装に関すること
- ・廃食油のSAF化についての市民への広報・普及啓発に関すること

#### ■JALの取組概要

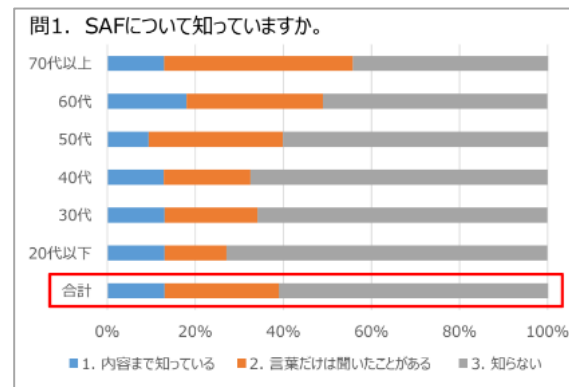
お客さまと共に作る、持続可能な国産航空燃料

## すてる油で空を飛ぼう！

#### 廃食油の回収・リサイクルの流れ



#### ■SAFの認知度調査



Source:国土交通省 航空局資料

UCOボトル



専用回収BOX



※全国60箇所に設置  
(2025年5月時点)